

幼児教育リーフレット



環

境

の

構

成

編



このリーフレットでは、幼児（幼稚園）・子ども（保育所）・園児（幼保連携型認定こども園）などのすべてを総称して、「子ども」と表しています。

教育・保育は「環境を通して行う」ことが基本！

☆ 幼児期は心身の発達が著しく、環境との関わり合いによって発達に必要な体験を積み重ねていくことから、幼児期の発達は生活している環境の影響を大きく受けます！

幼稚園教育要領、保育所保育指針、幼保連携型認定こども園教育・保育要領のそれぞれの総則にも、「環境を通して行う」教育・保育が基本であると明記されています。

子どもにとっての環境とは？

・物理的な事象、建物や設備、自然物や素材、通信機器や出版物等、広く社会文化情動的なものを含めた**物的環境**

・自分も含め親や兄弟姉妹、祖父母等の家族、近隣を含めた地域の人々、保育者等、それらが形づくる人間関係やその中の社会的な役割や地位、それらが醸し出す雰囲気や意識、価値観などを含めた**人的環境**

・さらには広く**時間や空間**等のほか、これらの様々な環境が相互に関連し合っ

て作り出される**状況そのもの**も環境として考えられます。

このように環境を捉えてみると、子どもにとっての環境は**子どもを取り巻くすべて**であるといえます。



教育・保育における「環境」

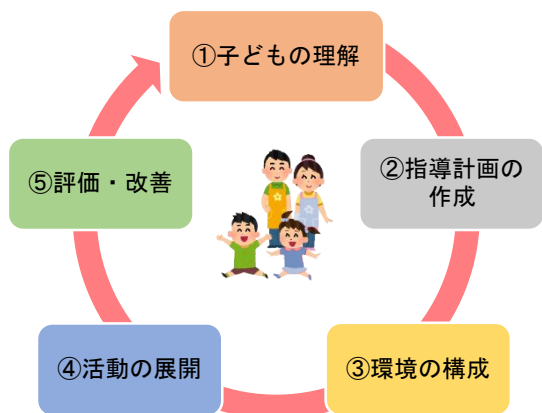
園舎・園庭等の建物や保育室や遊具等の**環境**

保育者（行動、言葉、心情、態度）も含めた子どもに関わる**全ての人々という環境**

健康で安全な**環境**
情緒の安定した生活ができる**環境**

☆ 教育・保育における環境は、上記以外にも様々な要素が考えられます。また、単に環境が子どもの周囲にあるということではありません。こうした様々な要素が**保育者等によって子どもの発達との関連で意味づけられ、意図的・計画的に構成される教育的な環境**を意味します。

「環境を通して行う」教育・保育の展開サイクル



- ① **子どもの理解**は教育・保育の出発点です。
- ② **指導計画**は子ども理解を基にして作成します。
- ③ 指導計画を基にして**環境の構成**を行います。
- ④ **活動の展開**に合わせて環境を再構成するなど、子どもの活動が充実するよう、柔軟に対応します。
- ⑤ ねらいが達成することができたかを**評価**をし、次の指導計画の作成に生かします。これらのサイクルで、教育・保育を日々**改善**していきます。

【参考】

幼児教育リーフレット 子ども理解編（大阪府幼児教育センター）
幼児教育リーフレット 指導計画編（大阪府幼児教育センター）

環境の構成のポイントを理解しよう！



環境の構成において重要なのは、
具体的なねらいや内容にふさわしいものとなるようにすることです。
そのポイントは以下のとおり

状況をつくること

様々な環境の条件を考慮して、子ども自ら環境に関わり活動したくなるような状況をつくり出す。

教材を工夫すること

教材研究を積み重ね、教材の理解を深め、ねらいに即して実際の子どもの姿から必要に応じた教材の活用ができるようにする。

子どもの活動に沿うこと

保育者自身が最も影響力のある人的環境であることを自覚し、子どもの思いや願いなどに寄り添いつつ、子どもの内面の動きを敏感に感じ取る。

環境を再構成すること

子どもの活動の展開に伴って、常に子どもの発達にとって意味のあるものとなるように再構成していくものとして柔軟に捉える。

「幼稚園教育要領解説」「幼児の思いをつなぐ指導計画の作成と保育の展開」を基に作成

読んでみよう！

『幼稚園教育要領解説』より

- ・幼児が必要な体験を積み重ねていくことができるように、発達の道筋を見通して、教育的に価値のある環境を計画的に構成していかなければならない。
- ・望ましい方向へ向かうために必要な経験ができるよう環境を構成していく必要がある。

『保育所保育指針解説』より

子ども一人一人の状況や発達過程を踏まえて、計画的に保育の環境を整えたり構成したりしていくことが重要である。すなわち、環境を通して乳幼児期の子どもの健やかな育ちを支え促していくことに、保育所保育の特性があるといえる。

『幼保連携型認定こども園教育・保育要領解説』より

- ・園児が必要な経験を積み重ねていくことができるように、発達の道筋を見通して、教育的及び保育的に価値のある環境を計画的に構成していかなければならない。
- ・望ましい方向へ向かうために必要な経験ができるような環境を構成していく必要がある。

☆ 幼稚園教育要領、保育所保育指針、幼保連携型認定こども園教育・保育要領のいずれにも、環境を構成することが必要・重要であることが示されています。

ねらいを達成するための状況をつくり出す環境の構成

○環境の構成

●子どもの姿

〈事例1〉子どもが活動を楽しむにはどう展開する？

Key Point !

- ①段階的な内容を考える ②子どもの姿から考える

ボール転がし

- ペットボトルボウリング。やわらかいボールを用意する。
- ボールを転がすことを繰り返し楽しむ。
- ※0～2歳児など低年齢では、この段階の前にはまずボールを「さわる」などしてボールに親しむといったことから次の展開につなげる。

転がしドッジ

- 室内から戸外へと、ボールを使う場を広げる。
- 集団での遊びを楽しむ。
- ボールを“転がす”から“投げる”へと変わる。

中あてあそび

- 声かけやボールを投げる時の動き方の変化等、保育者も入って盛り上げる。
- ボールの取り合い等のもめ事が起こる。
- ねらって当てたり、当たらないよう逃げたりすることを楽しむ。

ドッジボール

- ルールや遊びについて話し合う場を大切にする。
- コートをかいたり、チームを交代したり、点を競ったりと、自分達で繰り返しどんどん遊ぶ。



ねらいを達成するための状況をつくり出す環境の構成

○環境の構成

●子どもの姿

〈事例2〉子どもの興味・関心につなげるには、何をどのように準備する？

Key Point !

- ①遊びの場や空間を広げる
- ②コーナーの配置を変える
- ③試したり、工夫したりできるような教材を用意する
- ④友達からの刺激や認め合いの場を設定する

木工遊びコーナーを保育室に設置したが、興味を示すものの、小さな木片に何本か釘を打っておわるなど、遊びの広がりが見られない



再構成

- コーナーの配置を園庭に面したテラスに変更
- コーナーのすぐ前には、水遊び用の水を張った「たらい」を用意する

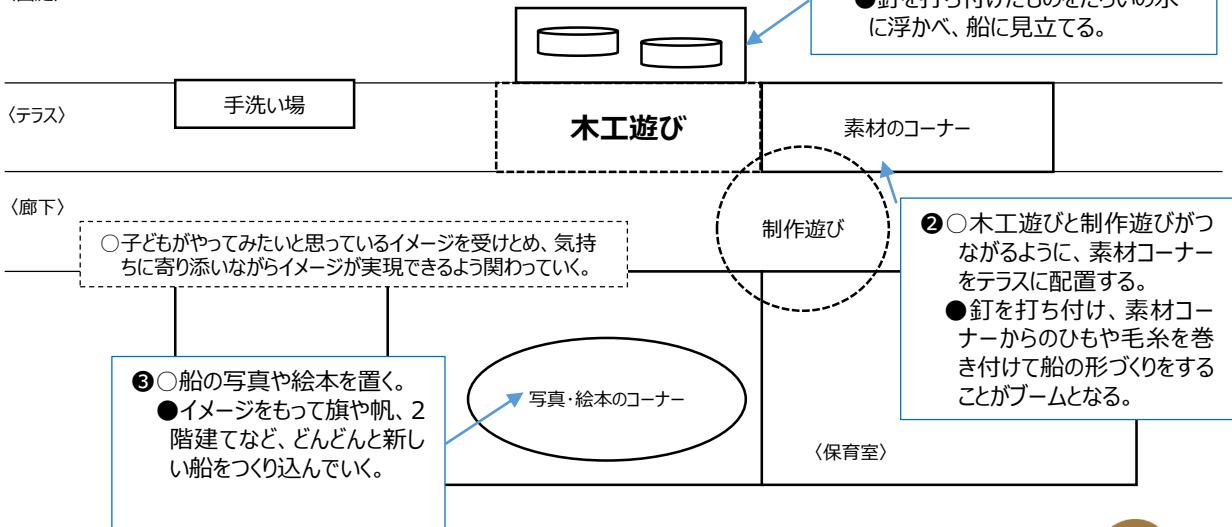
《環境図》

〈園庭〉

〈テラス〉

〈廊下〉

- ① ○靴を履き替えずにそのまますぐに船を浮かべに行けるよう、シート上にたらいを置いておく。
- 釘を打ち付けたものをたらいの水に浮かべ、船に見立てる。



この事例では子どもの姿、興味・関心から①→②→③と配置や環境を工夫することで、子ども自らが遊びを発展させていきます。このあと、友達のアイデアや工夫を認め合う場を設けると更なる遊びの発展につながります。この事例では、上記の順で環境を構成しましたが、子どもの興味・関心と活動の流れを把握し、その中で臨機応変に環境をつくり直す（再構成する）という柔軟な姿勢を持ちましょう。

※釘打ちなど行う場合は、釘などの用具の整理整頓、少人数ずつで行う、子どもと安全に活動するためのルールを一緒に確認するなどして、安全に配慮して活動を行いましょう。



〈事例3〉子どもの遊びが広がる・深まるには、どんな「人」「物」「場」が必要？

Key Point !

- ①子どもの思いをつなぐ
- ②じっくりと取り組める時間と場を設定する



5歳児がプラネタリウムを鑑賞後…

好きな時間の遊び

- 「プラネタリウムのこと、4歳児さんに（絵に）描いて見せてあげるねん。」と数名の子どもが絵かき帳に描く。

クラス全体での集まりの時間

- 絵を描いていた数名の子どもがクラスの友達に伝える場をつくる。
- 「みんなでしようや！」の声。

クラス全体の活動

- どんなものにするのか相談する場をもつ。
- 考えたり調べたりして、自分達のイメージを表現していく。

プラネタリウムの機械の制作や星・七夕の話を調べるなど

- 星や宇宙の歌・手遊び・集団遊び等を取り入れたり、絵本や図鑑を置いたりする。
- 星や宇宙に関するものを工夫して作り、飾ったり遊んだりする。

4歳児に伝える場

- 発表の場を設定する。
- 4歳児に自信をもって伝え、満足感を得る。

『先生は一生懸命！』

コラム「場の設定」を考える

4歳児月案に入っていた“浸し染め”での出来事。先輩が障子用の紙を切って用意してくれていたのですが、「あとは、絵の具があればもうできる。今日やろうかな。」と考えた保育者。ところが実際の場で何が起ったか…。

絵の具カップが細くて深く、折りたたんだ障子紙を浸すには手がつかえて絵の具の入っている部分までつかりにくい、絵の具の濃度が薄い、何とか浸せても折りたたんだ紙が張り付いてうまく広げにくい、絵の具がポトポトと滴り落ちて床が絵の具まみれ、やっと紙を広げたもののどこに置くのか場を用意していない等、散々なことに。「先生～、（紙が）破れた～！」「これ、どこに置くの？」「どうするの？」「服に絵の具こぼれた～！」「手、洗いに行く～！」「先生～っ！」「先生～っ！」と、あちらこちらからの20数名の子どもの声、声、声！簡単に考えていたのが、いざ始めてみると大違い。子どもも保育者も戸惑ってしまい、せっかくの遊びが残念なことに…。

子どもに申し訳ない一日となってしまったという保育者。実際の子どもの姿を想像して環境を考えておくべきだったと反省。このような“申し訳ない一日”がないように、子どもの姿を基にして事前に環境を整えた中で、子どもが遊びを楽しむ時間を設定したいものです。



参考資料

- ・幼稚園教育要領解説（平成30年） 文部科学省
- ・保育所保育指針解説（平成30年） 厚生労働省
- ・幼保連携型認定こども園教育・保育要領解説（平成30年）
内閣府 文部科学省 厚生労働省
- ・幼児の思いをつなぐ指導計画の作成と保育の展開（令和3年）
文部科学省
- ・保育所における自己評価ガイドライン（令和2年） 厚生労働省
- ・幼保連携型認定こども園における園児が心を寄せる環境の構成
（令和4年） 内閣府 文部科学省 厚生労働省

大阪府教育センターの
カリナビが利用できます！

カリキュラムNAViプラザ（カリナビ）

幼稚園新規採用教員研修・幼稚園10年経験者研修の園内研修の指導案を置いています。また、制作・リズム遊び・楽器遊び・運動会に向けて等、様々な活動内容の資料が見られます。

大阪府幼児教育センター

〒558-0011
大阪市住吉区苅田4丁目13番23号
（大阪府教育センター内）
TEL 06-6692-1882（代表）
FAX 06-6692-1923
URL <https://www.osaka-c.ed.jp/oyk-c/index.html>